

令和7年度市原健康福祉センター運営協議会議事録

1. 開催日時 令和7年12月24日（水）午後1時30分から午後2時50分

2. 開催場所 市原健康福祉センター2階会議室

3. 出席者

（1）運営協議会委員

小出讓治	委員	（市原市長）
伊豆倉雄太	委員	（千葉県議会議員）
鈴木友成	委員	（千葉県議会議員）
鈴木和宏	委員	（千葉県議会議員）
菊岡多鶴子	委員	（千葉県議会議員）
藤谷 誠	委員	（市原市教育委員会教育長）
善場吉洋	委員	（市原市消防局長）
泉水 昇	委員	（市原市医師会長）
小泉一明	委員	（市原市歯科医師会長）
岡本美孝	委員	（千葉労災病院長）
山本郁子	委員	（千葉県看護協会市原地区部会副会長）
船山慶子	委員	（市原市社会福祉協議会長）
片岡 仁	委員	（市原市民生委員・児童委員協議会長）
平野正明	委員	（千葉県獣医師会市原支部会長）
最上美女江	委員	（市原市栄養士会長）
東條慶子	委員	（市原市食生活改善協議会長）
水野義之	委員	（市原市食品衛生協会会長）

（2）健康福祉センター職員

中村恒穂	センター長
古澤祥人	副センター長
小泉 薫	副センター長
植草百合子	地域保健福祉課長
中安千洋	健康生活支援課長

4. 傍聴者 なし

5. 会長及び副会長の選出

会 長：小出讓治 委員（市原市長）

副会長：泉水 昇 委員（市原市医師会長）

6. 議事

議長：小出会長

(1) 議事録署名人選出

小泉一明 委員（市原市歯科医師会長）、船山慶子 委員（市原市社会福祉協議会長）を選出。

(2) 市原健康福祉センターにおける主要事業について

①令和6年度主要事業について

（説明者：総務企画課長、地域保健福祉課長、健康生活支援課長）

②「市原地域・職域連携推進協議会」事業について

（説明者：地域保健福祉課長）

③令和7年の感染症の発生状況及び健康危機（感染症）に係る保健所の取り組みについて

（説明者：健康生活支援課長）

なお、委員の質問に対する回答は次のとおりです。

【事前質問1】

市内の結核患者数は減少傾向のようだが、令和7年度も同様か。（事業年報P89）

【回答】

御指摘のとおり、令和6年は新規登録患者数が12名、年末時の登録患者数が38名と、例年よりも減少傾向が見られたが、令和7年9月末現在で、新規登録患者数が26名、登録患者数52名と増加に転じている。ここ数年の水準と比べると、令和2年～4年と同じ水準まで増加している状況である。

この増加についての明確な理由は不明だが、例年に比べ、令和6年の患者数が少なかったことから推測すると、令和6年に診断に結びつかなかった患者が令和7年に診断されたということが1つの要因と思われ、経済的困窮者等の受診の遅れや、専門医の受診に繋がるまでに時間を要してしまったことなどが原因として挙げられると考える。

当所としては今後も、住民や医療機関への計画の状況等に関する啓発、周知をより一層進めていきたい。

【事前質問2】

1市1保健所で他の保健所と比べると顔の見える関係が作りやすいと考える。管内保健師業務連絡研究会は多くの方が参加されていると思う。

実際に市で対応が難しいケースなどで県や多職種間と連携して解決できた場面などあれば教えてほしい。（事業年報P37）

【回答】

1市1保健所の体制になっているので、他の保健所と比較しても、市の保健師と当センターの保健師との間では顔の見える関係が築けていると感じている。

市保健師と保健所保健師とで連携した事案についてだが、保健所が申請窓口となっている小児慢性特定疾病医療費助成制度の対象者で、人工呼吸器を使用している方については、保健所の保健師が定期的に訪問指導を実施しているところである。

例えば、病院から退院した直後の初回訪問については、母親の負担も考慮して、在宅療養の状況を把握するために、市の保健師と一緒に訪問をするケースもあり、現状と課題を共有し、今後の支援を共に検討している。

また、市が提供しているサービス、例えば、母子保健法に基づく法定健康診査や予防接種については、接種可能な指定医療機関や接種券の発行など、市の保健師と連携して支援にあたることもある。

【事前質問3】

現任教育研修会とはどのようなものか。(事業年報P38)

【回答】

保健師の現任教育とは、千葉県健康づくり支援課が策定した「千葉県保健師活動指針・千葉県保健師現任教育マニュアル」に基づき、保健師の資質向上を図り、時代のニーズに応じた保健活動の実施に向けたものである。

新任期、中堅期、管理期と3つの経験年数に分けた階層別研修の他、領域別・業務別研修と、それぞれのプログラムに基づき、必要な知識・技術の習得を目指すことを目的としている。

県庁が主催するものは、保健所保健師や市町村保健師を対象としているところである。

現任教育研修会は3回実施しており、これは保健所の保健師を対象とした職場内研修で、日常の業務を実践しながら活動の評価や分析を行い、能力向上を図る研修や事例検討などを行っている。

【事前質問4】

市町村自殺対策計画の策定支援を行うとともに同計画に係るワークショップに参画～とあるが、具体的にはどのくらい会議やワークショップがあつて活動をしているのか。

(1)、(2)に実績がないのは市町村主体で実施されているため、県では実施していないということか。(事業年報P47)

【回答】

ワークショップについては、市原市が主催しているものである。いちほら健幸まちづくりプラン自殺対策計画を推進するための取り組みの一環として実施されているもので、保健所は担当者が委員の1人として参加をしているところである。

次に、会議については、国や県が主催する研修会・会議にも出席し、法律の改正内容や、県の施策の方向性や課題などを把握するよう努めている。

研修会の記載がないという質問だが、事業年報のほうで、記載漏れがあつた。

正誤表にも記載しているが、住民向け講演会については実施をしている。こころの健康についての勉強会として、市民の方を対象に市と共催で実施をしているところである。今年度も1月に開催を予定している。

【事前質問5】

指定感染症医療機関と連携した移送訓練等の実施～とあるが、昨年度の実施状況を踏まえ、今年度の取り組みとしてどのようなことを実施したのか。(事業年報P98)

【回答】

本年度は、新型インフルエンザが疑われる患者の発生を想定して訓練を実施している。

昨年度は、第二種感染症指定医療機関である千葉大学医学部附属病院様にご協力いただき、MERS発生時を想定した訓練を実施した。今年度は、管内の医療機関である千葉労災病院様にご協力をいただき、受診調整から患者搬送、検体搬送等の訓練を行っている。

千葉大学医学部附属病院様や管内の診療所や病院などの医療機関、さらに市役所の方にもご参加いただき、各関係機関との連携の強化ができたと考えている。

今後も、このような訓練等の機会を通じて各関係機関との連携を図るとともに、有事の際に円滑な対応できるよう、進めていきたいと考える。